

も研究機関等の利用が實際上極めて困難であるとの声が少なくない実状である。

この外、学問研究の発展にとって研究者間の直接的交流が大きな役割をすることは周知のところであるが、退職によってそのような機会も乏しくなるので、日常的に多くの研究者と交流しうるような場所や機会が保障されること、また、多年にわたって蓄積されてきた能力を社会的に活用する機会が保障されること等に対する要望も強いものがある。

以上のことから、定年制等による退職研究・教育者の生活保障の充実と研究継続等について必要な便宜を国が講じることを切望し、ここに勧告するものである。

9-66

総学庶第1829号 昭和49年11月20日

内閣総理大臣 田 中 角 栄 殿

日本学術会議会長 越 智 勇 一

写送付先：科学技術庁、環境庁両長官、外務、通商産業および運輸大臣、原子力委員会委員長

原子力安全の全般的な課題解決のために（勧告）

標記のことについて、本会議第66回総会に基づき、下記のとおり勧告します。

記

日本学術会議は、昭和24年の発足以来、堅く民主主義の原則を守り、その討論を公開しながら、原子力問題に関し、絶えず二つの課題を追求して来た。その一つは核兵器の問題であり、他の一つは原子力平和利用の問題である。

特に、1954年ビキニ事件以降、日本学術会議は一貫して、核兵器の実験、製造、貯蔵、そして使用に反対する態度を賢持し、その目的達成のため世界の科学者に協力を呼びかけて来た。一方では、その同じ時期に、我が国における原子力研究・開発の正しい発展を念願しその前提として、自主・民主・公開の三原則を提唱し、それは国の基本方針となった。

しかし、その後20年を経た今日、我々は上記二つの面について、改めて重大な局面を迎えている。すなわち、一方では、核実験の継続、核拡散、核兵器の増強が、人類生存の基礎を脅かすおそれを強めて来たこと、他方、我が国の原子力平和利用に関連して、さまざまな具体的問題の生じていることである。今我々は、これら問題の本質的な解決を目指して、一段と努力することを、決意し、ここに改めて次の諸原則を確認する。

- 1 （安全性についての考え方）科学的に見れば、いかなる実験も開発も絶対に安全であるということはありません。原子力の開発に際しては、常にこの認識に立って安全の確保についての徹底した措置がとられなければならない。
- 2 （資料の公開）国民の生命の安全を守ることを最優先する立場に立って、必要な資料はすべて公開されなければならない。

- 3 (民主的手続の保証) 資料の公開は、それら資料の科学者による民主的な検討が保証され、またその意見が自由に一般に伝えられることが前提となる。研究・調査及び発表の徹底した民主的手続が保証されなければならない。
- 4 (相互信頼の確保) 最近における諸事態の教訓によって、国民と科学者と政府との間に相互信頼を欠く場合には、決して正しい問題解決のあり得ないことが明らかになった。その観点からも常に民主的手続を貫ぬくことによって相互の信頼が確立されなければならない。
- 5 (核兵器全廃への努力) 核兵器の存在が、常に、原子力の安全について国民の信頼を阻害している要素の一つとなっていることは否定できない。現在、人類の生存そのものを脅かしつつある核兵器の問題から眼をそらすことなく、核兵器の実験、製造、貯蔵そして使用の全面禁止、核兵器全廃のために、更に一層の努力を払わなければならない。

我々は、ここに、政府が、原子力の安全問題について、常に上記諸原則にのつとつて問題に対処することを要望する。かつ、その精神に基づいて、安全審査体制を含めて、原子力安全の全般的な課題解決のため、日本学術会議の協力を求められることを勧告する。我々は、広範な科学者と結びついて、政府の要請に対し、全面的に協力する用意がある。

9-67

総学庶第1830号 昭和49年11月20日

内閣総理大臣、大蔵大臣、文部大臣
自治大臣、科学技術庁長官
人事院総裁

股(各通)

日本学術会議会長 越智勇一

写送付先：国立大学協会会長、公立大学協会会長、私立
大学懇話会長、日本私立大学協会会長、
日本私立大学連盟会長

国立・公立・私立大学研究・教育者の給与その他
研究・教育条件の大幅改善とりわけ格差是正につ
いて(要望)

標記のことについて、本会議第6回総会の議に基づき、下記のとおり要望します。

記

本会議は、昭和48年、49年の两年にわたって全国の国立・公立・私立大学研究・教育者の給与その他の研究・教育条件の実態調査を行った。その結果、全体として大学研究・教育者の月々の給与及び年収は民間企業勤労者のそれと比較して著しい遜色がある等、社会的にみて依然として極めて低く、その上、国立・公立・私立大学間及びそれぞれの中においても研究者の待遇面に格差があり、とりわけ、公立並びに私立の諸大学の内部には質的な意味さえ持つと言ってよいほどのはな